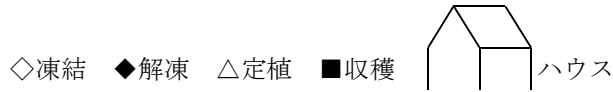


作目名	ゆり
-----	----

作型名	雨よけハウス抑制栽培（ハイブリッド系）
-----	---------------------

月 旬 作型	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
7月咲き																									
8月咲き																									
9月咲き																									



○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

飛騨、中濃、東濃

(2) 立地条件

①気象条件

生育適温は20～25℃であり、30℃を越えると高温障害が発生するので、夏季冷涼な地域に適する。

②ほ場条件

保水・排水性に富み、有機物含量の多い砂壤土が適するが、比較的広範囲の土壌で栽培可能である。地下水位が高いと根腐れの原因となるので、暗きよを設けるなどして排水を良くする。耕土は、最低30cm以上は確保する必要がある。土壌pHは5.5～6.5程度の弱酸性が適する。

③栽植株数（10a当たり）

20,000～30,000球（品種により異なる）

(3) 目標収量（10a当たり）

20,000～30,000本（品種により異なる）

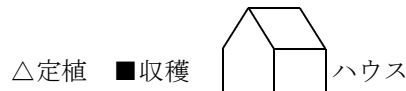
○施肥基準

(1)施肥基準量 (10a当たり・kg)

施肥成分	総量	基肥	追肥					
			1	2	3	4	5	6
窒素	15	10	2	3				
りん酸	17	15	0	2				
加里	15	10	2	3				

作型名	無加温季咲き栽培 (ハイブリッド系)
-----	--------------------

月 旬	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
季咲き																															コネカットキング [®] カブラナ等						



○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

県下全域

(2) 立地条件

①気象条件

生育適温は20～25℃であり、30℃を越えると高温障害が発生するので、夏季冷涼な地域に適する。

②ほ場条件

保水・排水性に富み、有機物含量の多い砂壤土が適するが、比較的広範囲の土壌で栽培可能である。地下水位が高いと根腐れの原因となるので、暗きょを設けるなどして排水を良くする。耕土は、最低30cm以上は確保する必要がある。土壌pHは5.5～6.5程度の弱酸性が適する。

③栽植株数 (10a当たり)

20,000～30,000球 (品種により異なる)

(3) 目標収量 (10a当たり)

20,000～30,000本 (品種により異なる)

○施肥基準

(1)施肥基準量 (10a当たり・kg)

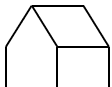
施肥成分	総量	基肥	追肥					
			1	2	3	4	5	6
窒素	15	10	2	3				
りん酸	17	15	0	2				
加里	15	10	2	3				

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計に当たっては、土壌診断に基づき適正な土壌改良を行い、施用量を決定する。
- 2 十分に除塩した完熟堆肥を10a当たり2t程度施用する。
- 3 堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 4 土壌pHは、5.5～6.5を目安に調整する。

作型名	促成栽培 (てっぼうゆり)
-----	---------------

月 旬 作型	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
12月咲き																									ひのもと ジョージア
1月咲き																									
2月咲き																									

H 温湯処理 ◇ 球根冷蔵 ◆ 冷蔵終了 △ 定植 ■ 収穫  ハウス

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域
岐阜、西濃

(2) 立地条件

①気象条件

冬季に温暖な地域が適する。

②ほ場条件

保水・排水性に富み、比較的肥沃な粘質壤土が適する。地下水位が高いと根腐れの原因となるので、暗きよを設けるなどして排水を良くする。耕土は、最低30cm以上は確保する必要がある。土壌pHは5.5～6.5程度の弱酸性が適する。

③栽植株数（10a当たり）

40,000球

(3) 目標収量（10a当たり）

40,000本

○施肥基準

(1)施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総量	基肥	追肥					
			1	2	3	4	5	6
窒素	10	7	2	1				
りん酸	10	9	0	1				
加里	10	7	2	1				

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計に当たっては、土壌診断に基づき適正な土壌改良を行い、施用量を決定する。
- 2 十分に除塩した完熟堆肥を10a当たり2t程度施用する。
- 3 堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 4 土壌pHは、5.5～6.5を目安に調整する。